

授業科目	精神看護実習	4 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	澤田いづみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	小川賢一、(黒田美幸)		
概要	精神看護実習では既習の知識と技術を活用し、精神障害のある人(以下、対象者)への看護活動を通じて、①対象者と援助関係を形成するコミュニケーション能力、②看護過程において問題解決モデルとストレングスモデルを相補的に展開し実践できる基礎的能力、③チームメンバーと協働して援助を展開できる基礎的連携能力、④対象者のリカバリーを支える精神保健医療福祉分野における支援の場、職種に関する理解、⑤精神障害に関わる基礎的な倫理判断力を獲得することをねらいとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と援助関係を形成するための基本的コミュニケーションを実施できる。 2. 対象者の健康状態に即して問題解決・ストレングスモデルの双方の視点から看護過程を展開できる。 3. チームで看護を実施するために必要なメンバーシップ、リーダーシップに基づき行動する。 4. 精神科リハビリテーションに関わる機関・職種・支援活動(プログラムを含む)について理解できる。 5. 精神障害をもつ人のリカバリーについて自己の意見を述べることができる。 6. 精神保健・医療・福祉における人権擁護や倫理的問題の現状を認識し、責任ある行動をとることができる 		
評価	ルーブリック評価により到達目標ごとの評価を行う。点数配分は病棟実習 50%、就労支援実習 30%、レポート 20%とする。		
履修上の留意点	原則として遅刻、欠席、早退は認めない。正当な事由によりやむを得ない場合は必ず事前に報告・連絡すること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者とのコミュニケーションをプロセスレコードで再構成する。 2. 精神科病棟で治療を受けている人を受け持ち、チームで看護過程を共有しながら看護を実践する。 3. 学生チームにおいてリーダーシップ・メンバーシップの役割を果たしながらチーム看護を行う。 4. デイケア・就労支援機関を見学し、利用者にストレングスに着目したインタビューを行う。 5. 精神科リハビリテーションに関わる支援プログラムに参加する。 6. 精神科病棟・就労支援施設・デイケアで2週間の期間内に90時間の実習を行う。 7. 実習期間中週に1回、臨床指導者・教員・学生で受け持ち患者について事例検討を行う。 8. 実習終了後、課題レポートを提出する。
実習期間	9月～11月中の2週間(予定)
実習場所	札幌医科大学附属病院神経精神科 医療法人北仁会 旭山病院 医療法人五風会 さっぽろ香雪病院 医療法人社団心優会 中江病院 その他調整中
実習時間	基本的に9:00開始、17:00終了。ただし、実習病棟や学習状況により変化する。

<p>実 習 内 容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と援助関係を形成するための基本的コミュニケーションを実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者と自己との関係を客観的に振り、再構成する。 2) 対象者と目的をもった言語的・非言語コミュニケーションを展開する。 2. 対象者の健康状態に即して問題解決・ストレングスモデルの双方の視点から看護過程を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメントを行い、健康課題を抽出する。 2) 対象者の健康課題に即した期待される成果を選定する。 3) 期待される成果に応じて、観察・教育・治療的な側面から総合的に看護計画を立案する。 4) 対象者の状況と自己との関係性を考慮しながら計画を実施する。 5) 対象者に実施した看護について、評価を行い、修正を行う。 3. チームで看護を実施するために必要なメンバーシップ、リーダーシップに基づき行動する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者に関わるチームの中でメンバーシップに基づいた行動をする。 2) 対象者に関わるチームの中でリーダーシップの役割を取る。 3) 自己のリーダーシップ、メンバーシップの特性を客観的に考え今後の課題を述べる。 4. 精神科リハビリテーションに関わる機関・職種・支援活動(プログラムを含む)について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 就労支援活動・デイケア並びにリハビリテーションプログラムに目的をもって参加する。。 2) 病院・デイケア・就労支援機関ならびにリハビリテーションプログラムの役割を説明する。 3) 対象者・利用者の支援に関わっている職種の役割について説明する。 4) 各機関・職種の連携の実際とあり方について説明する。 5. 精神障害をもつ人のリカバリーについて自己の意見を述べることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 就労支援活動・デイケアに参加する利用者、ストレングスの視点からインタビューを行う。 2) 病院での看護活動を踏まえて精神障害をもつ人のリカバリーについて自己の意見を述べる。 6. 精神保健・医療・福祉における人権擁護や倫理的問題の現状を認識し、責任ある行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健・医療・福祉における倫理的問題の実際と人権擁護を実現する取り組みについて説明する。 2) 人権擁護の基本として、真摯な姿勢で実習に取り組む。 3) 自己の責任を自覚し、適切に報告・連絡・相談する。 4) 守秘義務と個人情報保護の重要性を理解した行動をする。
----------------	--